

暫定議題

第 25 回科学委員会に付属する拡大科学委員会
2020 年 8 月 31 日－9 月 5 日 [及び 2020 年 9 月 7 日]

1. 開会
 - 1.1. 参加者の紹介
 - 1.2. 会議運営上の説明
2. ラポルツァーの任命
3. 議題及び文書リストの採択
4. SBT 漁業のレビュー
 - 4.1. 国別報告書の発表

CCSBT 26 は ESC に対する国別報告書の改訂テンプレートを採択した。改訂テンプレートでは、国別配分量に帰属する SBT 漁獲量（帰属 SBT 漁獲量）に関するセクション 6 が拡大されている。メンバーは、ESC に対する国別報告書の作成にあたってはこの改訂テンプレートを使用する必要がある。
 - 4.2. 事務局による漁獲量のレビュー
5. 第 11 回オペレーティング・モデル及び管理方式（OMMP）に関する技術会合からの報告
6. 蓄養及び市場問題に関する検討

CCSBT 26 は、2019 年の ESC により勧告された新たな管理方式（MP）を採択した。しかしながら、2 つの CCSBT メンバーは、CCSBT 27 において「MP により勧告される可能性があるいかなる TAC の増加に関して合意する前に、現行の蓄養の不確実性の解決に向けて現実的かつ測定可能な進捗がなされ、及び不確実性を調査するための市場調査提案に関して十分な進捗があったかどうかを確認する必要があると考える」と述べた。この議題項目では、これらの問題に関して ESC に提出された全ての文書について検討する機会を提供する。

 - 6.1. 蓄養に関する不確実性

オーストラリアは、CCSBT 27 に対し、ステレオビデオを導入するための同国の努力に関する計画を示した文書を提出する。またオーストラリアは、ESC に対し、サンプリングシステム（現行では 10 kg 以上の 100 尾をサンプリング）の確度を改善するための代替的なオプションに関する文書を提出し、サンプリングのバイアスを回避するためのプロトコルに関する ESC の助言を求める可能性がある。
 - 6.2. 市場に関する不確実性

日本は、ESC 及び CCSBT 27 に対し、あらゆる不正又は不調和を特定するために日本の市場データと全てのメンバーから得られた漁獲データを比較するための提案を含む文書を提出することを約束している。
7. 科学調査計画及びその他休会期間中の科学活動の結果のレビュー
 - 7.1. 科学活動の結果
 - 7.2. 非メンバーによる SBT 漁獲量に関する解析のアップデート

8. 新たな MP（ケーブタウン方式）の運用

8.1. ケーブタウン方式に関するメタルールのアップデート

ESC は、バリ方式に関するメタルールについて、拡大委員会が採択した MP を反映する形でアップデートすべきことに合意した。このアップデートは CCSBT の管理方式の採択に関する改正決議パラグラフ 1 において想定されているもので、OMMP 11 において検討される予定である。

8.2. MP による 2021–2023 年の勧告 TAC

ESC は、2021–2023 年の TAC を勧告するため、ケーブタウン方式による計算を行う予定である。

9. 漁業指標の評価

10. SBT 資源評価

ESC は、3 年ごとに SBT の全面的な資源評価を行う任務を課されている。直近の全面的な資源評価は 2017 年に実施されたので、次回の全面的資源評価は 2020 年の ESC 会合において完了される予定である。

11. SBT の資源状況

11.1. メタルール及び例外的状況の評価

この議題項目に対して作成される文書では、ケーブタウン方式に対するデータ入力について検討すべきであり、バリ方式メタルールのケーブタウン方式向けアップデートもここで議論することが考えられる。

11.2. SBT 資源状況の概要

12. SBT 管理助言

ESC は、拡大委員会に対し、特に漁業指標の評価結果、SBT の資源状況及び 2021 年から 2023 年までの SBT の勧告 TAC に関する助言を行う予定である。さらに ESC は、仮に TAC を現状水準に維持した場合に SSB_{MSY} に到達するまでに要する時間枠に関する助言を提供されたいとの ESC からの要請に対応する予定である。

13. 科学調査計画（SRP）のアップデート

2019 年の ESC 会合は、ESC 25 までに 2021 - 25 年の科学調査計画（SRP）をレビューし、これを改定することを提案した。提案されたプロセスでは、各メンバーが適宜 (i) 2014 - 18 年 SRP の簡単なパフォーマンスレビューを行い、(ii) 継続的な科学モニタリング及び長期的な戦略的研究の両方を包括する研究活動に対して提案中の改訂を加え、(iii) 各包括的研究活動について全般的な研究テーマを提案し、(iv) 休会期間中に研究活動に関する議論や共同研究を設立し、(v) ESC 25 に対して作業文書としての SRP 案を提出することとされた。また 2019 年 6 月の OMMP 会合においても、メンバーが作成した SRP 案のレビュー及び検討を行うための時間がいくらか割り当てられる可能性がある。

14. 2021 年におけるデータ交換要件

15. 調査死亡枠

16. 2021 年（及びそれ以降）の作業計画、スケジュール及び研究予算

16.1. 2021 年のスケジュール及び見込まれる予算と、作業計画及び予算に対する科学調査計画の影響の概要

16.2. 次回会合の開催時期、期間及び構成

17. その他の事項

18. 会合報告書の採択

19. 閉会